

第2回 新発田駅前複合施設基本設計審査会 会議概要

- 1 開催日時 平成25年10月9日(水) 午後1時30分から3時30分
- 2 場所 新発田市役所 別館 2階会議室
- 3 出席者 11名(委員全13名)

中 渡 憲 彦 委員	前 田 圭 子 委員
吉 田 育 子 委員	三 浦 ユリコ 委員
川 本 健太郎 委員	鈴 木 秋 彦 委員
荒 川 真里子 委員	山 口 恵 子 委員
近 藤 麻衣子 委員	山 田 恵理子 委員
鈴 木 美和子 委員	

欠席者 2名

竹 田 和 夫 委員

寺 尾 ちはる 委員

- 4 傍聴者数 8名
- 5 会議

1 報告事項

- (1) 第1回基本設計審査会概要について
- (2) 新発田駅前複合施設整備基本方針について
- (3) パブリックコメント回答について
- (4) 「えんぱーく」視察報告について
- (5) 第2回基本設計ワークショップについて

委員

えんぱーくでは、機能融合のためにどのような工夫をしているのか。実際、機能融合して4年間、結果どういう具体的なアウトプットが組み立てられているのか。

設計業務受注業者

えんぱーくの工夫は、「えんぱーくらぶ」という組織体をあえて作ったところである。子育て支援や図書館など様々なボランティアがあるが、ボランティアに参加するには、「えんぱーくらぶ」に入らなければならない、そこが一番ハードとソフトの融合がうまくいっているところであると思う。

機能融合は、市民側だけが融合をうまくしようと思ってもうまく融合できず、行政が縦割りではなく、ひとつの団体になるような工夫を市民と話しながら作ったところも大きい。

委員

コーディネーターとかそういったキーパーソンをあえて配置しているのか。

設計業務受注業者

そこまで説明はなかったが、建設するまでに何度かワークショップがあり、また、いろいろな団体を発足させて、そのなかで市民同士の意見交換を行ったようだ。

事務局

基本設計ワークショップはハード部分のワークショップである。現在、運営については、図書館は教育委員会所管、こどもセンターは市長部局といわゆる行政の縦割りの状態である。昨日のワークショップで、今後そうした管理・運営についても市民のご意見を頂戴する場を設けるので、基本設計ワークショップにご参加の皆さんも参画いただきたいという話をした。

行政内部としては、新しい施設を所管するにあたり、行政の縦割り部分をきちっと議論しなければならないと、市長、教育長、私の3人の中で確認した。

事務局

塩尻えんぱーく完成後、565日で入館者10万人を達成したというところで、塩尻の担当いわく、松本市からの来館者が全体の4割を占める。その10万人なり来た市民が、街にどのような影響があったのかとの質問と思うが、塩尻市の担当いわく、今後の課題でもあり、模索中という回答であった。

委員

塩尻の館内見学をしたときに3グループに別れた。みんな違う情報を持って帰ってきた。私どものグループは「ここで結婚式をやったんですよ。」ということがものすごく印象に残っている。結婚식을やりたいという市民の方がおられて、それを許可したとのこと。今後こういうことが増えるかもしれないと伺った。大変驚きである。

また、長野県で唯一人口が、2千人増加したという話も伺った。その館を統括するトップの位置づけが部長級だともお聞きした。館全体が市の組織の中で部として扱われていると私は理解した。その辺が参考になるかもしれない。

2 議事

(1) 機能配置（ゾーニング）について

委員

図書館は同じ階に納まるのか。えんぱーくのように上と下とに分かれることはないのか。

設計業務受注業者

昨日のワークショップのときにも同じ意見があったが、実際には1階では納まらない。建物としては3階か4階かになる。ただ、その何階に何が入るということまでを皆さんにご検討いただくと、かなり難しい話になるので、全体の機能のつながりを考える場とした。実際には、ある部分が上の階に行ったり、ある部分が下の階へ行ったりということになる。

委員

図書館をばらばらにさせてほしくない。同じ階にしてもらいたい。

塩尻市に行かれた方はわかったと思うが、図書館の自由に関する宣言がちゃんとあった。それを初めから場所をとって、図書館の入り口にでも置いてほしい。

委員

宣言はないが、坪川洵平先生のしん言は図書館にある。

事務局

今ほどの委員からの宣言、憲章というものは、基本設計に参考にさせていただく。

委員

食育コーナーというのはどのようなものか。

事務局

現図書館の2階に、食に関するコーナーを設けている。1階児童開架にも食に関して、「ありがとう」であるとか「いただきます、ごちそうさま」というような絵本を専門の棚を設けて、現在も運用している。複合施設にもそういうコーナーを設けるということである。

委員

キッチンスタジオだが、子ども一時預かりを近くに置いていただきたい。今の若いお母さん方は料理を習いたくても子どもさんがいるとなかなかできない。私も個人で学校でやっているが、ベビーシッターに頼んでいるという方が参加者に多い。この方たちに郷土料理などを教えていかなければいけない気がする。食育は、食に関してだけを指導すると思ったが、和風の部屋が少なくなって、今の子どもたちには、きちんとした座り方などの躰に関しても指導できればありがたいと思っている。

委員

事務局が言ったとおりであるが、市の方針で食育というのがある。今、ご指摘のような、例えば躰、食の文化、郷土食なども含めていきたい。

学校などに配る「新発田の教育」という冊子の中に2、3ページに渡って、学校の先生に参考になるようなものがあり、それを配布している。今ほどのご指摘のように食の延長上にある躰などは大変大事なことであるので、今から考えていきたい。

委員

ワークショップのまとめの中に、やはり新発田は城下町という非常に大事な部分がある。城下町の特徴を活かした建物を作っていただきたい。また、電車に乗ってこられた方も、「ああ、ここは新発田なんだな。」というような建物であって欲しい。エントランスの出入口は、目的のところへすぐ行ける動線が必要であり、表示は最低3箇所はつけていただきたい。聖籠が今、図書館を建設しているが、屋根が鳥の翼のようなすごい屋根で、建物の照明が葡萄の形をしており、「ああ、いいな。」と感じている。新発田らしさを取り入れたものにしていただきたい。

設計業務受注業者

皆さんからもそういったご意見をいただいております、また今後の検討にしたい。新発田らしさについては、今後葡萄の照明に負けないような設計をしたい。

委員

塩尻市は三方ガラスになり、明かりが入っていいのだが、雪の量が違うので向こうとこちらではそういうところを考えてほしい。ガラス張りじゃなくてもいい、吹き抜けもあまりいらぬ。

委員

こどもセンターについて、今現在いきいき館のプレイルームを担当している。お母さん方は子どもを車で連れて来て、荷物を持って上がってくる。雪や雨にかからないで上がってこれるような駐車場の作り方を考えていただきたい。アーケードがあつたりしても吹き込むと凍り、危険である。その辺も十分に考慮していただきたい。

プレイルームは多いときで80人から100人の利用があり、親子で楽しい時間を過ごしている。家にいると子どもだけの育児になるので、そこに来ることでお母さんもリフレッシュできる。子どももみんなと遊べる。また、同じ時期に子育てをしているママ友ができたり、悩みを話すことでリフレッシュして帰るなど、いろいろといい面がある。しかし、今のスペースでは0才から3才までとなっている。休みの日など兄弟で来ると、やはり大きい子どもを連れては無理な状態である。広いところをいくつかのコーナーに、0才から2才、2才から3才ぐらいとなんとなく避けられるようなコーナーでお母さんが見渡せるところで遊ばせることを皆さん望まれている。ぜひ子育て中の方々の意見を反映させていただきたい。

特殊なものだと思うので、子育て支援センターの詳しい方に設計していただきたい。毎日のように来ていただいて、親子の動線を見ていただけたらと思っている。

委員

ボリューム配置とはどのような意味か。

設計業務受注業者

ボリューム配置というのは、建物のボリュームという言い方をする。平面がどのくらいで高さがどのくらいとか。

委員

階層ということか。そういう言葉で説明した方がわかりやすい。

昨日のワークショップで作られたこの機能の一覧表というのは佐藤総合計画で考えたものか。それとも今、使われている施設、図書館や子育て支援センターとかの意見を集約してこの一覧表を作ったのか。

事務局

1つ1つのものについては、基本設計の整備基本方針に合わせ、このような機能が必要というところで基本設計を発注する段階のものである。それとは別に、付箋で書いて

いるのは、これ以外にワークショップで新たに追加をしたものである。

委員

今日私どもが機能配置の中で検討する部分というのは、例えばこの一覧表であればブルー、ピンク、茶色、黄色、グレーに別れているものをどのように配置するのかという機能配置を考えるのか。それとも、この機能相関イメージ図のどこにその機能融合をするのかを考えるのか。今の説明だと理解しにくい。こういう配置にするとどういった機能融合が見込まれるというあたりをボリューム感も含めて説明をいただくと、私たちもそのレイアウトを検証する上では役立つのかなと思う。

設計業務受注業者

本日、皆さんにご検討いただく点に関しては、まだ私たちから何も提示していない状態で何階建てがいいとか、これぐらいの広さがいいということを検討するのは難しい。その絵を見た上で、この絵ではこれとこれが離れてるけど、もう少し近くに置きたいとか、プレイルームはもっと広くし、細かく部屋を分けるのではなく、中を仕切ったりとかという議論をいただければ、それを踏まえ、その機能相関のイメージを修正しつつ、ボリューム感を示す簡単な図面を作っていく作業に入っていくというものである。

委員

そうではなく、佐藤総合計画がこのレイアウトを提案した理由があると思う。機能融合を働かせるために、この案を提案した、何かポイントがあるのではないか。ワークショップの色分けを見ると、必ずしもイコールとは言えない部分もあるので、何かの考えがあってこのイメージ図を出したのではないか。その考えのベースになっているアイデアを聞かせていただきたいという意味である。

委員

関連の質問だが、図書館の1班、2班、3班の方がこのエリアに図書館エリアがあり、このエリアにこういうものがあるといいと説明があった。レイアウト的にこの部分に図書館、アーケード側のほうに図書館エリアを設けるとか、その辺が佐藤総合計画がこういう意図でこうレイアウトをしたという、その辺がわかりにくいので、その辺を説明していただきたい。

設計業務受注業者

我々設計者の考えと、もうひとつは、ワークショップの絵とこの案が必ずしも一致していないことについて、まず2つ目の質問だが、見ていただいたように各班おおまかな傾向として抽出できる部分はあるが、全部同じ案ではない、多少違っているのはご了承ください。ではどのように考えたか説明したい。機能融合を図るということは重要であるが、ある程度のまとまりを持って、各機能を配置するといった点も重要であるので、この表では左側にこどもセンターの機能があり、左上に児童開架がある。この真ん中上の部分に図書館というゾーンを配置し、おおまかに各機能のゾーンを配置している。機能融合という話では、それぞれの機能のなかで融合して使えるものがあるという

話を踏まえ、こどもセンターの中に入っている部分と児童開架にも入ってる部分、例えば提示した相関図では“はだしスペース”やお話スペース、例えば婦人コーナーでのお母さん向けの本とこどもセンターや児童開架などで機能融合するという考えに基づいて作成している。

委員

なぜ図書館を商店側の方で、子育て支援を神社側にしたのは、特に理由はなく、たまたま図書館が商店側でたまたま神社側に子育て支援になったということか。

設計業務受注業者

商店街側か神社側かという部分に関しては、ある程度変わっていく部分もある。どちらかという、それよりもエントランスから近いところにこどもセンター、児童開架や一般開架などがあって、レファレンス機能とかがもう少しエントランスから離れるなどの関係で配置している。

委員

ワークショップも商店側か神社側ということか。だからそういうイメージで配置しているのか。

委員

そういうグループもあったということである。

委員

私どもが聞きたいのは、設計者として何を機能融合のメインとしているのかが伝わればいいのかと思う。

設計業務受注業者

まず、ワークショップ結果を見ていただいて、ブルーが図書館でピンクが子どもであるが、おおまかに1班と2班は商店街の前に図書館がある。3班は逆になっている。共通しているのは静かに本を読むところと賑やかなこどもセンターを離れた方がいいという意見であった。機能融合であれば、真ん中に何か挟んだ方がいい。方位的に南側に児童をという意見もあった。商店街の賑やかな方に児童図書があるのは3班である。どちらを優先するかはこれから考えていくが、その前にどういう繋がりをもって配置したらいいのかを四角い紙にレイアウトしたのがこの案である。どのエリアにもアプローチするメイン広場があった方がいいとの意見があったので、わかるようにしている。民間棟は、1階や2階で繋がっていた方がいいとの意見があったので、このエントランス近くに繋がれば両方の玄関に近くていいと考えている。あと機能融合については、こどもセンターの枠があると思うが、例えばはだしスペースや婦人コーナーは、一般開架の方にあるが、こういったところは一般の図書館では別々にレイアウトしてしまふことが多い。それをあえて重なる部分を少し考えてみたというところである。例えば婦人コーナーというのは、児童開架、こどもセンター、一般開架と3つに重なっている。こういったところを効率的に合わせもった開架に考えることが重要ではないかということのひとつの

絵として考えている。それと例えばキッチンスタジオについては矢印とかで結んでる。先ほど、子ども一時預かりとの連携も大切であるという意見があった。そういったところは新たに矢印が埋まっていくというもので、これを皆さんで協議していただきながら、この図を完成させていくのが今日のひとつの場である。

委員

今、子育てサークルの代表をしている。子育てサークルルームとプレイルームは、市外から引っ越してくるお母さんや内気な方、見学体験のためにも近くに配置していただけるとありがたい。

この機能相関イメージ図には、今まで見たことのない裸足スペース、創作室、フリースペースなどがあり、あまり想像がつかない。

設計業務受注業者

はだしスペースは、児童開架で、一方プレイルームは子どもセンターの機能である。この子どもセンターの中で子どもたちが遊ぶ場所とは別に、図書館の中で子どもたちが靴を脱いで本を読める場所としてお話スペースが書かれている。同じような考え方で、絵本読み聞かせというのは子どもセンターの中で、お母さんが絵本を読ませたり、児童開架の中でお話の会を開催したりして本を読んだりする。この辺を近くに配置しているのは機能連携ができるのではないかということも含めて近くにしている。フリースペースは、子どもたちを遊ばせながらお母さんたちがいたりとかを考えている。

委員

基本方針について見ると、子育て機能付き図書館にしか見えないのではないかと。複合施設で中心市街地を活性化ということを言われたときに、ハード的にどこがそれを受け持つのか。何を目的に機能融合していくのか。また、新たに機能を追加する議論の余地があるのか。

事務局

基本的には整備基本方針にある項目以外のものは、考えていない。子育て機能付きの図書館と捉えがちな件は、例えばキッチンスタジオにお父さんやお母さんが来て、そこに子どもさんを預ける。終わってからその料理について、食育コーナーでもう一度学習する。終わってから皆さんで講演を受ける。そういった機能の連携も可能かなというところを考えている。子どもだけとは考えていない。

委員

35年間県立高校で教えてきたという立場で参加させていただいている。この場所の基本コンセプトは人が行き交い賑わいあふれるまちづくり、核となる拠点の創造ということが明文化されている。また、情報発信ゾーンにもなっている。そういうことをベースに考えると、ここにもう少し加えることが可能なのかと考えている。えんぱーくで一番関心を引いたのがハローワークである。ハローワークについて、私の立場から強く要望するところであるが、中高生の居場所にハローワークを位置付けたい。この駅前のご

の大事な場所にハローワークが存在することはとても重要なことではないか。ぜひ検討していただきたい。

それから、民間棟について、要望だが本屋や文房具も最低限必要ではないか。今回の資料にあるパブリックコメントの皆さんの熱いお気持ちは、本当に感動しており、やはり求められているところは、今申し上げたハローワーク、本屋、文房具屋なども関わってくるのではないかと考えている。ハローワークの立場からしても決してマイナスではなく、マイナスどころか大変なプラスではないかと思う。

事務局

昨日のワークショップの中でも、駅にある時刻表みたいなものや、列車が遅れているのがわかるようなものが中に入った方がいいとあった。今のハローワークの話など、それぞれ相手もあり、考えを聞かなければならない。当然全体的な事業費もある。基本設計をしていく中で、提案については考えていきたい。ハローワークについては、例えばビジネスコーナーのところにインターネット等で情報が見れるとかいろんな手法があると思っている。

民間棟については、民間は営利という部分があることから、テナントを入れて採算が合うかがある。提案をいただいたことから民間棟の建設事業者にお伝えする。

(2) 基本設計審査会のスケジュールについて

委員

昨日の夜、遅くまで作業され、今日の会議までにまとめたということだが、ワークショップの意向を反映するには時間が短すぎるのではないか。ワークショップの中で新たに出た課題により変更になる可能性があるかと記載しているのであれば、ワークショップから少し日にちを置かれて、よく考えてからの方がいいのではないか。

設計業務受注業者

我々もワークショップをやる前に同じことをして、こういう考えも出てくるだろう、それに併せてこういうのを作ろうというのを社内でシミュレーションを行った。ここに集めた4つ、6つ、7つぐらいの話は皆さん共通してあるものを中心に集めている。いろんな意見もあり、非現実的な意見については、また後から考えようということにしている。今日、キッチンスタジオ、子ども一時預かりというところも含め意見をいただいたので、より良くしていきたいと考えている。

機能相関イメージ図をもとにゾーニングしていくと作業の中で、この機能相関図が実現できないこともあるかもしれない。それは敷地や法律的なものとかいろいろあり、変わっていくかもしれないが、おおまかにこの機能相関イメージ図がないとこれから設計を進めるには情動的に不足していたので、今回、機能相関図の作成を行った。期間を取ればというのはあるが、今回、やればできた。夜遅くまで働くのは慣れているので、その辺は頑張るので、よろしく願いしたい。

(3) その他

3 その他

以上